

## 第1回有識者検討会議 意見まとめ

No.	内容
1	<p><b>【論点2】「目指すべき姿」を実現するために、資料9の全体構成（案）は十分か。（盛り込むべき要素、修正すべき点等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・5年間のビジョンを策定するにあたり、コロナや感染症対策を全面的に押し出しすぎではないか。</li><li>・「変化し、成長し続けるまち」というフレーズは良いので、あえて「コロナを踏まえて」と書く必要はないのではないか。</li><li>・施策の柱に優劣はないが、どうしても1番目や2番目にあるものに目がいき、後ろに記載されているものは目がいかなくなりがちなので、1番目、2番目に書く内容は慎重に選ぶべきである。順番を変えるだけでも印象が変わるので、5年間の実施計画の中で、感染症対策が第一優先であるかのような記述は考えるべきではないか。</li><li>・感染症対策や安全・安心も重要であるが、神戸の強みを前に出して、「楽しさ」が伝わるような記述の方が良い。</li><li>・市民にとっては、「人の流れ」より「余裕を持って楽しく、かつ、安心して過ごせるか」が重要。「余裕」や「ゆとり」といったキーワードをどこかに盛り込めないか。神戸市には素敵な生活がある点をアピールしていくべきであり、神戸市の、密度は高くないが都会であるところ、郊外、山や海といった魅力的な自然など、生活スタイルの選択肢が多様で複数ある点を伝えることが重要である</li><li>・ライフスタイルと働き方が変わってきており、やるべきことさえ終われば、自分の興味があることや挑戦したいことに時間が使える、そのようなまちであることが言えれば、魅力的だと思う。</li></ul> <p><b>【論点3】「目指すべき姿」を実現するために、具体的にどのような施策を進めていくか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・人の流れという点では、神戸市は夜に過ごせる場所が少ない。例えば、夜間に開いている美術館など、仕事を終えた後に文化的活動ができるような場所は増やせないか。</li><li>・共働きが増えてきているので男女問わず、働きながら子育てをできる環境をいかにつくっていくかが重要である。結婚、出産に対するアプローチは難しいが、子育てに関しての公的なサービスは考えやすいので、「使いたい」と思われるようなサービスを考えていくべきである。</li><li>・教育に関してのインターネット環境は、土木インフラ（道路・水道等）と同じくらい重要視して整備しなければならない。同様に、公共空間・公共施設でのインターネット環境の整備も、同様に重要だと位置付けてよい時代が来ていると考える。教育だけでなく、防災・観光・日常のまちづくりにも役立つものであり、Society5.0にも関わる内容であるので、ビジョンで打ち出すことはできないか。</li></ul>

**【論点1】2025年に向けて、神戸市の「目指すべき姿」をどのように考えるか**

- ・人口の増減という結果よりもその原因にフォーカスを当てて考えるべきである。神戸市の場合、市内企業の大半を占めるのは中小企業。いかに魅力ある中小企業を増やし、雇用を増やすかが重要である。
- ・WEBマーケティングなどDX（デジタルトランスフォーメーション）を積極的に取り込み、企業の利益率を高める取組みを進めていくべき。神戸は「東京の下請け」になるのではなく、「域外から稼ぐ」元受けにならない。

**【論点2】「目指すべき姿」を実現するために、資料9の全体構成（案）は十分か。（盛り込むべき要素、修正すべき点等）**

- 2
- ・全体のマーケットが縮小する中で、「域外から稼ぐ」視点とそれを「域内で分配する」視点が非常に重要。前者については、神戸は歴史上からも重厚長大産業やファッション、洋菓子などの先例があるので、打ち出していきやすいのでは。「神戸ブランド」は未だに通用する。
  - ・地域とともに歩む中小企業を育成するという価値観を醸成すべきである。オープンデータの活用・DXの推進により、これまでは大企業にしかできなかったサービスも中小企業が提供できるようになっている。サービスが同等なら小回りが利く・親しみやすい等中小企業の優位性を活かすことができる。
  - ・コロナウイルスによる影響は、地方にとってはある意味で追い風ともとらえられる。従来の「集中」に対して「分散」が重要など、新たな価値観が生まれている。従来の「効率」に対しても、重要な新たな価値観があるのではないか。
  - ・東京を拠点とするナショナル企業から、ローカル企業の流れに上手に乗れば良い。

**【論点3】「目指すべき姿」を実現するために、具体的にどのような施策を進めていくか。**

- ・活力ある中小企業を育てるために、DXを取り入れ、域外から稼ぎ利益率を高める企業をどれだけ増やせるか。これを推し進める神戸ならではの施策を打ち出すべき。
- ・神戸には多くの学生がいる。合同説明会による採用の支援、公営住宅の空家を地元企業へ開放する等の施策で、学生に地元企業に就職してもらい、定着してもらう。こういった施策が可能なのは大都市である神戸市ならではの。他都市との差別化にもつながる。
- ・KEMS（神戸環境マネジメント）はコスト意識や環境意識を高める上で非常に効果的だった。DXの取組みにも、同様に神戸版の簡易なマネジメントシステムを導入頂きたい。

**【論点1】2025年に向けて、神戸市の「目指すべき姿」をどのように考えるか**

・民間企業によってはコロナでオフィスを持たないところも出てくるため、企業誘致は難しくなる。また、海外からの人材獲得や、オートメーション化により働き口の拡大も期待できない中、市役所、教師などの公の仕事を増やすことが重要である。公務員志望で地域に貢献し、様々なことにチャレンジしたい若者も増えており、その層を市が採用することで、そこに定住し、子育てをするようになる。「市職員になれば、様々なことができる」となれば、全国から優秀な人が集まるようになる。また、災害時、非常時の点から言っても、増やすことは地域にとってプラスになる。

・外国人は今後も増えることが期待される。彼らが神戸市民として子どもを育て、日本の教育を受けることで、多文化の背景を持った市民として定着してもらい、本当の「国際化」した市民が増えれば良い。このためには、親が安定した仕事を持って、十分な教育を受けることが出来るような環境にしていかなければならない。

**【論点2】「目指すべき姿」を実現するために、資料9の全体構成(案)は十分か。(盛り込むべき要素、修正すべき点等)**

・神戸は昔から外国籍の方が生活している、進取の気性がある、色々な生き方ができるまちであるので、「多様性」をもっと打ち出すべき。外国人学校も多いので、教育の面からも、「神戸にいながら国際的な教育が受けられる」ということも言える。

・阪神淡路大震災を経験しているので、柱の中のどこかに「災害」という文言を入れてほしい。②の柱にも関わってくることであるが、阪神淡路大震災を経験したからこそ、安全・安心に暮らせると言える。

**【論点3】「目指すべき姿」を実現するために、具体的にどのような施策を進めていくか。**

・小学校の教育が古く、管理主義的、画一的である。教育水準を一律に底上げしようということに一生懸命すぎて、生徒一人ひとりへのアプローチが足りておらず、子供の変化と教育現場がマッチしていない。若い先生が増えており、自由な発想で新しい神戸の教育分野を創っていきけるチャンスであるので、このチャンスを活かしてほしい。

・子育てをする中で、施策を様々実施している割には支えられている感じがしない。「保育園に入園できるかどうか」ということを一つとっても、直前になるまでわからないなど、不安になる要素が多い。情報発信等を丁寧に行っていくべき。

**【論点1】2025年に向けて、神戸市の「目指すべき姿」をどのように考えるか**

・神戸の人やまちは、歴史が比較的新しく、外国人が多く住んでいたこと等から、合理的な考え方が根付いていると考える。加えて、関西独自の人と人との距離が近いという特徴もある。この両方を兼ね備えたまちとして、魅力を発信していけば良いのではないかと。

・神戸には、地域によって異なる人間関係を有するといった「多様性」がある。このような神戸ならではの魅力を訴えることができれば良い。

**【論点2】「目指すべき姿」を実現するために、資料9の全体構成（案）は十分か。（盛り込むべき要素、修正すべき点等）**

・昨今の感染症や阪神淡路大震災を経験したまちとして、「①感染症を踏まえた社会への変革」も「②安全安心でレジリエントなまちづくり」も無視できない。

・これまで、無駄を減らそうと尽力してきたが、今回その「無駄」がなかったことから、感染症への対応が困難となってしまった。今後、考え方の転換が起きると思うが、「余裕」が重要なのではないかと。

・テーマに「変化、成長、進化」という要素は必須。

・「取組の視点・横断目標」に人の要素は必要。

・テクノロジーの実装も必要であるが、「神戸からイノベーションを起こしていく」というニュアンスも含めていくべき。

4

**【論点1】2025年に向けて、神戸市の「目指すべき姿」をどのように考えるか**

・まず人の暮らしや生活を第一に考えてほしい。華やかさよりも、「ひとりひとりを大事にする、人にやさしい、地に足のついたまち」になってほしい。

・教師間のいじめ、病院での虐待など、神戸で衝撃的な事件が起こった。行政が閉鎖的な空間に踏み込めなかったことが原因でないか。こうしたところを改善し、環境を整えていっていただきたい。

**【論点2】「目指すべき姿」を実現するために、資料9の全体構成（案）は十分か。（盛り込むべき要素、修正すべき点等）**

・先端技術も良いが、かたや市民の足元の生活の充実が重要である。

・こども救急、中央市民病院をはじめ、神戸の医療体制は誇れるものがある。こういったところを打ち出していくべきではないかと。

・タワーマンションの建設により、地域の生徒数の構造がいびつになるなど問題が発生している。神戸の良さは、西区や北区で、例えば畑仕事をしながらも都会に通勤が可能などである。

・神戸は都市公園が多いなど、住みやすい街であるとの評判がある。人口減少は日本全体の問題。他都市と人口を奪いあうより、神戸で住み続けてもらう、子どもを産み育ててもらうことに目を向けるべきでは。

**【論点3】「目指すべき姿」を実現するために、具体的にどのような施策を進めていくか。**

- 5
- ・教育・医療・福祉・住宅の分野は行政が施策を打ち出していきやすい。認知症神戸モデルは非常に良かった。インバウンドに頼りすぎるのではなく、生活の基盤を強固にすることが重要。
  - ・水害や地震に備える減災の取組みが非常に大切。阪神大震災を経験した街だからこそ、「神戸にいれば地震や洪水があっても大丈夫。街がダメージを受けず、復興のための経費も必要ない」という街になってほしい。
  - ・ポートアイランドに医療産業都市の企業や大学を誘致するのは良かったが、ポートライナーが非常に混雑している。ポートアイランドのインフラは問題ではないか。
  - ・神戸の夜の街は東京・大阪と比べ静かと言われるが、人間本来の生活リズムと調和しており良いことだと思う。一方で、観光や出張等の来街者にとっては重要な要素である。
  - ・結婚や子育ては経済的負担がかかり、収入が安定しない人は結婚に踏み出せない。行政からの経済的支援が充実すれば、思い切って子どもを持つ、と思ってもらえるのでは。
  - ・神戸は大学・私立学校が多い。一方で公立学校に通う子どもたちの中には貧困世帯の子どもたちもいる。安心して子育てができる明るいまちになるためには、そういった子どもたちにも目を向け、全体の底上げをすることが重要である。
  - ・新型コロナウイルス感染症の影響により、東京一極集中の見直しの機運が高まっており、地元志向が強まっているのではないか。神戸で働く機会の提供が重要。公務員の専門職数の確保や、病院での就労環境の改善等、市民生活を縁の下で支えている人を大切にす取組みを進めてほしい。
  - ・神戸は食文化が豊かであるほか、多種多様な要素があるのは誇れるところである。例えば食の分野では、明確な地産地消の取組みなどがあると良いのでは。

**【論点1】2025年に向けて、神戸市の「目指すべき姿」をどのように考えるか**

**【分散社会への転換】**

- ・今回の新型コロナウイルス感染症の影響や、東京一極集中の課題が浮き彫りになった点を踏まえ、規模でなく、世界で、関西できらりと輝くまち（海と山の自然、新幹線と空港が隣接、南北道路が整備されれば国際物流拠点となり得る）
- ・豊かな住環境、豊かな自然での芸術文化、教育のある、新しいライフスタイルが実現できるまち。

**【論点2】「目指すべき姿」を実現するために、資料9の全体構成（案）は十分か。（盛り込むべき要素、修正すべき点等）**

- ・取組の視点・横断目標の項で、「3. 経済主体が補完しあって支えるまちづくり」と記載されているが、やや漠然とした表現ではないか。
  - ・本来は、産業構造の転換を進め、競争力のある産業の強化とリスクに強い産業構造とすべきではないか。
  - ・経済主体が補完しあって支えるまちの意味合いは、例えば、域内での産業（介護など）と外部から稼ぐ産業とのバランスということであるのか。一般には外部から稼げる産業／事業が重要で、外部から外貨を獲得して、域内の産業／事業の循環が良くなる都市が成長すると言われている。
  - ・神戸が震災後の停滞や今般のコロナ禍を経て再生するには、需要創造の視点が重要と考える。需要創造にはソフト＋ハード両面が必要であり、デジタル化の進展による都心部への新産業集積等、市民、企業の新たなニーズや価値観に合致した都市機能が必要。
- 6
- ・取組の視点・横断目標の項で、「4. Society5.0の推進」の点で、今回の日本のデジタル化の遅れをみると加速が必要であり、分野もDXやデジタルガバメントなど幅広く記載すべきではないか。

例) 4. Society5.0の強力な推進（DX、スマートシティ、デジタルガバメント・・・）

4. デジタル革新の加速（Society5.0の推進、・・・）

- ・取組の視点・横断目標の項で、「5. 神戸の強みを活かしたSDGsの達成」とあるが、SDGsの中でどの項目に近いものを指しているのか。社会のきずなイメージであるのか。
- ・施策の柱の「②安全・安心でレジリエントなまちづくり」とあるが、「安心」と言う言葉は、個人の主観的意味合いが反映され個人差が大きいため、「安全かつ回復力のある持続可能な柔軟性のあるまちづくり」という意味で、「安全でレジリエントなまちづくり」でいいのではないか。

**【論点3】「目指すべき姿」を実現するために、具体的にどのような施策を進めていくか。**

- ・震災で遅れた、各種公共インフラ関連への投資（道路、空港、港湾、都市再整備等）、さらにはデジタル投資を加速し（情報通信基盤の抜本的強化）、後発のメリットを見出しながらまちづくりを進める施策。特に、新型コロナによる経済の回復には、財政出動的対応で上記のインフラ整備を加速すべきではないか。
- ・感染症のようなパンデミックに自然災害が多発し、両者が重複する時代の危機管理体制の強化。
- ・会議所の神戸経済ビジョンにも記載しているが、神戸のグランドデザインを描き、

### 【論点1】2025年に向けて、神戸市の「目指すべき姿」をどのように考えるか

- ・「リバビリティ」（リバビリティ（住みやすさ）の追求）

新型コロナウイルスの影響は避けられない状況下の短期ビジョンでは、「産業の競争力強化」などよりも、「安心して住みやすいまち（リバビリティ）」を打ち出していくべきでは。ここで言う住みやすさとは、安全・安心を含む住みやすさ。どのような都市が住みやすいか、考え抜いてほしい。

・誰にとっても暮らしやすい、というのは残念ながら難しい。来街者に、神戸に対しどのような価値を感じてもらいたいのか、明確に打ち出しても良いのではないだろうか。「若者が選ぶまち」なら、どういった若者に来てほしいのか、視点をはっきりとさせるべきではないか。例えば女性など。市役所の若手職員が神戸の方向性を提案していくのはどうか。

・神戸市内も含めて、神戸を取り巻く都市圏域の再構成が起きるだろう。大都市への集中の流れが逆行する。東京から来る人を受け入れる器となる神戸の街の特長は、「人が集まりフェイストゥフェイスのやりとりも可能で、かつゆとりのあるところ」ではないだろうか。

- ・「サステナビリティ」（スマートシティの推進によるサステナビリティ）

新型コロナウイルス感染症への対応と最も繋がり深い概念。サステナビリティの実現のためには、国土強靱化というよりもスマートシティの実現が重要であると思う。情報が共有され必要な支援ができる、DX（デジタルトランスフォーメーション）により都市が頑健に支えられていることが大事。その上で、プライバシー保護の観点も考えなければならない。日本では諸外国と比して、必要な場合には個人の情報が提供されるべきという意識が低い、これは改めないといけないのではないだろうか。

・例えば上海では、コロナウイルス感染症を受け、即座にベンチャー企業がシームレスなオンライン教育のシステムを開発し、子どもたちに提供した。神戸もそういったベンチャー企業が多数集積したスマート都市になってほしい。

- ・「グローバルゼーション」（グローバルゼーションを踏まえた都市政策）

グローバルゼーションは不可逆的なもの。コロナウイルス感染症の影響を受けても、従前までとはベクトルを変えて進化し続ける。各国の「競争」ではなく、「協奏」が重要。関係が冷え込みがちなアジア諸国の中にあっても、連携することが求められている。そういった視点から都市政策を打ち出してほしい。

・発展途上国では技術をキャッチアップするため、学習（ラーニング）が必要。一方、得たものを具体的に事業化していくのは、また違う力が必要となる。都市政策にも多分にそういったところがある。いろいろなものを学習し、それをまたいろいろなものに結び付けていく。これを打ち出せないか。例えば「学習する都市・神戸」など。

**【論点2】「目指すべき姿」を実現するために、資料9の全体構成（案）は十分か。  
（盛り込むべき要素、修正すべき点等）**

- ・「感染症を踏まえた社会への改革」が一つの柱に置かれていることに違和感がある。他の柱はすべてコロナウイルス感染症への対応が前提にあるべき。並列にしくなくても良いのではいか。
- ・2～7の柱について、それぞれは必要な方向性だと思うが、レベル感の違うものが並んでいる気がする。例えば「経済成長」と「結婚・出産・子育て・教育の支援」では質が違うのでは。分かりやすいように揃えた+B213ほうが良いと思う。
- ・半年、1年間をかけて新型コロナウイルス感染症による様々な影響が現れる。このような事態のもとで、これまでの延長で都市政策を行うのは疑問がある。根本的な在り方を変えるべきではないか。DX（デジタルトランスフォーメーション）をもじって「シティトランスフォーメーション」を掲げるなど、有識者検討会委員から止められるような極端なものが打ち出されることを期待している。

**【論点3】「目指すべき姿」を実現するために、具体的にどのような施策を進めていくか。**

- ・ユーザーオリエンテッド（＝顧客第一主義）の改革を進めてほしい。例えば、バスや地下鉄の料金体系を時間制にするなどで一体化すれば、乗客の乗り換えへのハードルが下がるのでは。
- ・MaaSの取組みは非常に複雑であるが、それゆえに他都市も尻込みしていると思う。こういったものに先駆けて着手することで、都市の魅力が大きく向上するのではないだろうか。
- ・ポートアイランドのインフラは改善しないと大学が撤退してしまうのではないだろうか。
- ・500Startupsの成果は目を引くものがある。もっと成功例を情報発信していくべき。
- ・西神中央のそごう跡は商業施設ではなく、オープンな場として、地域に住んでいる方がビジネスを起こせる場にしてもらいたい。
- ・震災前、西神工業団地の企業は、西神エリアに住む優秀な女性を雇用できることが最大の利点であると言っていた。そうした、言うなれば地域の資源を掘り起こして行ってほしい。三宮まで通勤せずとも、快適な場所が創れるのではないだろうか。
- ・逆に将来が見通せないエリアも出てくるとは思うが、やむを得ない面もあると思う。成長の見込めるエリアにどんどん目を向けて行ってほしい。
- ・女子大生に、楽しく神戸で仕事をしたいと思ってもらえるか。女子大生に対し、神戸の医療産業都市のベンチャー企業や研究に興味を持ってもらえるようにしてほしい。

**【論点1】2025年に向けて、神戸市の「目指すべき姿」をどのように考えるか**

・コロナのような危機を迎えた時こそ住環境を考える。人口減少の抑制を掲げているが、今後ある程度減少していくことはやむを得なく、人口減少を見込んだまちづくりが大切。危機に面したときに中規模ではあるが衣食住困らず、一人ひとりのケアが行き届くまちが良いと思う。市民からしても、ある程度の規模のまちを望んでいるのではないか。

・周りでも神戸好きな人は多く、「街をこうしていきたい」といった意見を持つ人が多い。難しいと思うが、それらを一つの方向にそろえていくムーブメントのようなものが起これば良い。

**【論点2】「目指すべき姿」を実現するために、資料9の全体構成（案）は十分か。（盛り込むべき要素、修正すべき点等）**

・テーマや施策の柱に「コロナ」という言葉は入れない方が良い。今回の感染症はこれまでのビジョンや社会を変革するアクセラレーターである。

・若者に焦点が当たっているが、「人生100年時代」であることを考えると、シニア層の視点も大切。シニア層が神戸での生活に満足していれば、その家族が神戸に戻ってくる可能性もある。

**【論点3】「目指すべき姿」を実現するために、具体的にどのような施策を進めていくか。**

・SDGsに関しては、SDGsありきではなく、市の政策に関連付けていく方が良い。網羅的に全てをカバーする必要はなく、注力分野みたいなものを打ち出せていければ。いずれにしても、SDGsはコミュニケーションで欠かせない。

・「多文化・多様性」に関しては、昔は領事館の数も多く、神戸まつりなどでも各国のパレードがあるなど、もっと感じることができたが、今は無い。もっと色々な場面で「見える化」していったら良いと思う。歴史上、神戸は海外との関係が深い都市であるが、一度神戸を経験した外国人やその子孫が、観光や何らかの形で戻ってくる可能性もあると思う。

**【論点1】2025年に向けて、神戸市の「目指すべき姿」をどのように考えるか**

- ・活気があるまちを目指して欲しい。そのためには若者を増やす必要があり、「若者が選ぶまち」はその趣旨に合っていると思う。
- ・神戸には良いところが沢山あるがゆえに、PRが全体的に薄くなっているように思える。もっと何かを重点的に押していても良いのではないか。
- ・テーマにあえて「コロナ」という言葉を使う必要はないと思う。時代の流れは速く、絞るのは適切でない。

**【論点2】「目指すべき姿」を実現するために、資料9の全体構成（案）は十分か。（盛り込むべき要素、修正すべき点等）**

- ・計画にありがちであるが、抽象的で分かりにくくなる傾向があるので、ある程度具体的な表現とするべき。
- ・横断型目標の1から3と柱とのつながりが分かりにくい。
- ・柱の1番目に「感染症」を打ち出すとコロナへの対策がメインのようなビジョンに見えてしまう。順番を変えるとともに、感染症が全てではないので、「医療」であるとか「変化」であるとかそのような要素をもっと押し出していても良いのでは。
- ・「②安全・安心でレジリエントなまちづくり」と「⑥持続可能なまちづくり」、及び「④人の流れを創る魅力づくり」と「⑦地域内、地域間連携」の違いが分かりにくい。もう少しわかりやすい表現にすべき。

**【論点3】「目指すべき姿」を実現するために、具体的にどのような施策を進めていくか。**

9

- ・コロナを踏まえて、安定志向が高まり、より大手企業を選ぶ傾向になっていくだろう。ただ、リモート化の促進でワーキングスペースは多様化していくので、オフィスを誘致するなどして、働く場を作っていければ良いと思う。六甲山は交通の便が悪い。駅前でないといけない。
- ・住む場所に関しては、地下鉄沿線などは既にまちが出来上がっており、新規人口を増やすのは難しい。どうリニューアルしていくか、どう交通でつないでいくか検討しなければならない。
- ・西に人口が流れる要因の一つとして、地価や物価の安さがあるだろう。利便性で勝負していくしかない。
- ・若者がもっと地域で参画できる場を作れば良いのではないか。つながりを求めている若者は多いし、活性化にもつながる。「自分たちで地域を良くしていく」という意識の醸成も期待できる。
- ・交通に関しては、バスの利便性をより良くしていくべき。生活路線が主だと思うが、あまり使おうと思う路線がない。三宮や元町のスポットをうまくつなげてルートを構築できれば。分散している三宮周辺のバス停も課題である。
- ・神戸空港をより発展させていって欲しい。コロナで国内間の移動が増えると思うので、それらをうまく取り込んでいければ良い。
- ・都市と農村の生活をうまくつなげることが出来れば良い。
- ・観光に関しても色々とスポットがある割には、目玉になる場所が無い。スポット同士も分散されている。例えば、三宮、元町近辺をうまくつなげられれば良いだが。また、綺麗にリノベーションするエリアと昔ながらの情緒を残すエリアでコンセプトを明確にして区分していても良いと思う。

**【論点1】2025年に向けて、神戸市の「目指すべき姿」をどのように考えるか**

・「都市部は都会で、少し行けば田舎生活が楽しめる」「緑が豊かなところに住みたい人も都会的なところに住みたい人も、両方の夢をかなえられる」という神戸の魅力を伝えていくべき。都会でおしゃれなイメージが先行しているところがあるが、それだけではない。

**【論点2】「目指すべき姿」を実現するために、資料9の全体構成（案）は十分か。（盛り込むべき要素、修正すべき点等）**

・コロナという表現は使わず、成長や変化を表現した方がよい。今後も影響はあると思うが、本来あるべき姿を見ていく方がよい。でなければ今後なにかあるたびに揺れ動かなければならず、それは本来の姿ではない。

・横断型目標の1～3に関しては、コロナだけではなく、災害も考えうまく取り入れていけばよい。

・SDGsに関しては、他市の取組みも参考にすればよい。

・「共生」ということで、すべての人や多様性の意味を含んでいるが、「障害のある方」についての記載がないので、施策として打ち出していくべき。

**【論点3】「目指すべき姿」を実現するために、具体的にどのような施策を進めていくか。**

・地域のつながりという観点では、高齢化や地域の担い手不足という点に目がいきがちであるが、若い人たちも地域の中でつながりを求めている。そういったつながりを作っていくことは、将来を末永く見据えるなら必要である。

・直接的に子育て世代に施策でPRすることも重要であるが、「保育士の定着率が高いことや、給料が高いこと」などは、間接的ではあるが、母親たちの間で良い評判となることが期待される。そういった方法にも目を向けるべき。

・幼、保と小学校の連携という意味で小学校に向けての準備ができる、小1の壁がない、なども若い世帯へのアピールになる。

・学齢期前の教育や学童保育の環境改善等、今までとは違う魅力の出し方をすべき。

・都市公園面積の広さ政令市中1番で魅力的であるのでPRすべき。

・離婚率の上昇から、ひとり親世帯やステップファミリーも増加しているので、どのような家族形態でも安心して育てられる環境というのは魅力的である。

・塾にいかなければ進学できないという流れになっているので、学校教育の質を担保することにより、「神戸に来れば、塾に行かなくても進学したいところにいける」といったようになれば収入面で不安がある人も安心できる。コロナ禍で貧困家庭の学習の機会が減っており、ますます学習格差が広がっているが、そういうところにも手が行き届きやすく底上げができる。

・空き家問題は深刻な問題である。持続可能なまちづくりのためには、重要である。

・子育て世代が流出していく理由を分析すべき。色々なデータがあると思うが、何を分析するか、見方によっても変わる。インタビューなどでは、データではわからない真の理由の部分も見えてくることもあるので重要である。

・若い人たちのリアルなつながりを地域で作る取り組みが、「持続可能なまちづくり」には必要。

**【論点1】2025年に向けて、神戸市の「目指すべき姿」をどのように考えるか**

・飾り言葉に「神戸らしい」という言葉がよくつかわれており、それは港湾都市を前提にしたイメージである。その魅力は無くなりつつあるが、しがみついている。また、異人館などの洋風なイメージにも寄りかかっているため、そこから一歩出て変わっていくべきである。兵庫区や長田区など、いわゆる神戸のB面の部分にも魅力はあるので、そこを含めてどうすべきか考え直さなければならない。「ハイカラな神戸」を脱ぎ捨てて新しいものをつくるべき。

・インバウンドで賑わっている時の、外国人観光客が殺到しインバウンド公害となるようなまちを目指すべきではない。ゆとりあることを魅力としたまちを目指すべき。

・過去のビジョンが絵に描いた餅になってきた反省の上に立って、これまでの手法と決別した「目指すべき姿」を模索する必要があるのではないか。若者に選ばれるまちとはどんなまちなのか。雇用や子育て、地域社会など従来の施策の延長線上にビジョンを描いてもどの都市とも代わり映えのしない未来像になる。まさにコロナ禍の時代、従来の概念は通用しない。一歩ジャンプして「幸福」をキーワードにしたまちを目指してはどうだろう。

**【論点2】「目指すべき姿」を実現するために、資料9の全体構成（案）は十分か。（盛り込むべき要素、修正すべき点等）**

・京都に近いということもあり、日本舞踊、お茶やお花なども盛んで様々な流派や会派がある。また一方で神戸－阪神間ではバレエが盛んであり、全国トップクラスのパレエ団もあるなど、神戸には認知されていない色々な素材がある。縦割りで特化し、その枠だけでとどまるのではなく、点でバラバラになっているそれらを結び付けて、多様性を発信していければ良い。神戸にある魅力を調べて並べてみて、それらを繋ぐことで化学変化が起きるかもしれない。

・芸術イベントなどは、人をたくさん集めることで成功となっていたが、コロナで人を集めることができないため、その大前提が崩れている。神戸は人口規模では密になりすぎず、余裕をもって芸術を楽しむという、大都会には無いゆとりもセットにして出していくには、ふさわしい場所である。六甲山や海など、余裕のある空気感、距離感を魅力として打ち出すべき。

・施策の7つの柱を統合する大黒柱がいるのでは。それぞれが目指す究極の一致点は何か。「幸福」という概念で包括することで行動計画も血が通ったものになる。人口が増えても経済活動が活発になっても競争原理に駆られて生きづらくなるのなら、それぞれの目標を数値的に達成しても真に求めるゴールとは言えない。結果として若者が自発的に移り住んできたいまちにならない。

11

**【論点3】「目指すべき姿」を実現するために、具体的にどのような施策を進めていくか。**

・神戸は地政学的に人が集まりにくい場所である。経済的理由で人が集まった歴史があるが、そのようなことが再び起こる可能性は少ない。このような中、何を核にして魅力あるまちをつくるかというときに、六甲山や海があり、風光明媚なまちである、大阪にはない居心地の良さというものが大事になる。震災前に、神戸のまち全体を舞台とした「アーバンリゾートフェア」というイベントを実施していたが、実際に神戸の暮らしを見てもらうための良いイベントだった。実際に住んでもらうには暮らしを見てもらわないといけないので、このような工夫も必要。

・のびのび育てるような教育や、アートで若者が活躍できるようなものを狙うべき。

- ・九州豪雨レベルの雨が神戸で降ると、大災害になることが懸念されるので、砂防や河川改修も含め、安全性は重要である。
- ・働き方の多様性という面で六甲山をテレワークの拠点にするなどの施策を積み重ねていけば良い。
- ・文化、芸術行事がいろいろなところで行われていることは、まちの魅力、人を惹きつける大きな要素であるので、醸成していかなければならない。
- ・ストリートピアノを設置しているが、様々な音楽家がいることは財産であるので、いつも音楽が流れているまちにするような仕組みを作れば良い。
- ・多様性に関しては、ベトナム人が増えていることなどもポテンシャルである。
- ・「幸福度」が高いまちということは、このまちに住んでいて生きることが楽しい、充実している、満足感がある—ということになる。データランキングに間接的にはその指標となる項目もあるが、ずばり的を射たデータはない。たとえば「全47都道府県幸福度ランキング2018年度版」（東洋経済新報社）で神戸市の幸福度は政令市20市の中で15位と低迷している。とくに注目するのは自殺者数がワースト2で大阪市に次いで多い。その後変化しているかもしれないが、なぜ多いのか。世代別、要因別に分析し、劇的に減らさなければ幸福なまちにはなれない。いのちの電話などだけに頼った対応では目指すべき姿にならない。